

Contents

- ・会長就任のご挨拶
- ・獣医神経病学会2021を終えて
- ・トランスマッター(essay)
温故知新
前程万里
- ・徳力賞受賞者の一言
- ・新評議員自己紹介
- ・事務局から
- ・編集後記

北川勝人
伊藤大介

宇塚雄次
小路祐樹
平嶋洵也
安倍欣博

会長就任のご挨拶



第6代 獣医神経病学会会長

日本大学 北川勝人

今年度より会長を仰せつかりました北川勝人です。日本大学卒業後一次診療施設で代診として働き、その後日本大学の教員となり、小動物神経病専門医として大学付属病院で診療を行っています。獣医神経病学会は、研究会発足の頃から会員として参加させて頂いています。発足の頃は、代診をしていたため神経病に対する知識も

少なく、情報を得るのも一苦労でした。なので、この学会に参加することが楽しみでした。そして本学会に参加して多くの情報を得ることができました。また、多くの先生方と知り合うことができました。私自身にとって非常に意味のある学会です。

本学会が開業されている先生方に多くの情報が得られ、会員同士交流が深められるようにできればと思っています。また前会長の宇塚雄次先生の思いを引き継ぎ、このJSVN Letterでは会員相互の情報交換としての目的を果たすために様々な企画を提案できればと思います。会員の皆様にとって本学会が意味のあるものになるよう努力します。ご協力の程よろしくお願いいたします。

獣医神経病学会2021を終えて



獣医神経病学会2021 副大会長

日本大学 伊藤 大介

全国的にコロナ患者が減少し、緊急事態宣言は解除された今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか？コロナによる昨年度の獣医神経病学会の中止から一年、本年度は学会初のオンライン開催ということで、6月27日～7月11日（ライブとオンライン配信）に行われました。ライブとオンライン配信によるハイブリッド型の学会として、開催前は大会長の北川先生と「参加者がどれくらいになるのか？」と少しばかり不安視しておりましたが、対面式に引けをとらないほど多くの先生方に参加していただいたことに「獣医神経病学会ってやっぱり良いな」と感じました。

学会内容も充実しており、折戸謙介先生や金園晨一先生によるシンポジウム「ステロイドを再考する」、入交真己先生による教育講演「神経病と迷う行動問題との鑑別」は、私だけではなく多くの先生方が疑問に思っていたことを解決してくれた内容だったと思います。また個人的には北川先生による基調講演は感慨深いものでした。私が学部生の頃に北川先生と出会って20年以上経ちますが、最初は神経サークルのような存在だったのが、、、今は研究室まででき、獣医神経科医を目指す若い先生方も所属してくれて、、、それはさておき、来年度は、さらにコロナ禍が終息し、対面での学会が開催され皆様とお会いできることを切に願っております。

第46回獣医神経病学会

ライブ配信 — 2021年6月27日(日) 9:50～17:00

見逃し配信 — 2021年6月28日(月)～7月11日(日)

※「質疑応答」「討論会」は見逃し配信には含まれません

『学術論文』

岩手大学 獣医画像診断学研究室 宇塚 雄次

ついに私も大学を退官する時期となった。山口大学で奉職を始めてもうすぐ40年である。その間に自分に何ができたのか、この業界にどんな貢献ができたのであろうか。考えてみると頭が痛くなる。自身がこれから動物医療業界からフェードアウトするにあたって考えるは、その存在である。本人が居なくなっても活字は残る。私は業績作成が下手で、遅い。したがって論文があまり出ていない。だから、此の期に及んで論文作成を努力している。退官した後もしばらくはこれで時間潰しができそうである。

しかし、相田みつおは言った。「本当に必要なものだけが世に残る」(こんな感じです。正確ではないかも)。確かに自分の業績を振り返るとジャンクな学術論文もあれば、価値を認めて貰えそうな商業論文もある。インパクトファクター(IF)という指標もあるが、伝統的な学術論文でもオープンアクセスではないがゆえに今はIFが低い、という現象を最近は目にしている。世間に知られなければ無いと同じ、というものだ。これからの先生方には、しっかりと世に残る活字を生み出すような活動を期待したいと思っている。これらの積み重ねが結局は我々の業界のレベルアップ、存在意義の高まりに繋がるのだから。



温故知新

TRANSMITTER

前程万里

『もうそろそろ』

山陽動物医療センター 小路 祐樹

学会などで皆様と気兼ねなく飲める日まで、あともう少しという感じになってきました。このコロナ禍の中、去年息子2人が騒いでも音を気にしなくて良いよう、“田舎の一軒家”に引っ越してみました。大阪の内地で育った釣り好き人間としましては、海まで車5分、川遊びもすぐできるのは最高の立地。たまに玄關開けて鹿と顔合わせになるのはびっくりしますが、息子も釣吉にすべく励んでおります。

また部屋数も増えたことで、筋トレグッズもスペース気にせず購入できるようになりました。最近購入したのが写真のもの。息子と公園に行った際、自分が懸垂できなくなっていることに落胆し、購入。こんな重量級のものは集配所止まりで家まで宅配してくれないんですね、佐川まで取りに行くことからトレーニングでした。疲れて帰ってきても数分頑張れば爽やかな気分になれます。

そろそろ小路は動き出すタイミングを見計らってます、早く皆様の元へ遊びに行きたい。学会でお会いする際にもバッキバキの背中皆様抱きつきに行こうと思いますので、お相手よろしくお願いします。



徳力賞受賞者の一言



麻布大学小動物外科学研究室神経班一同。筆者の左隣が齋藤弥代子先生

前回と今回の2度にわたる徳力賞受賞を誇りに思うと同時に、自分は今年度で大学院を修了する予定でありますので、大学院修了後も獣医神経病学の発展に貢献できるよう引き続き精進していく所存でございます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

麻布大学 小動物外科学研究室 博士課程
平嶋洵也

前回に引き続き、今年度も栄えある賞を頂戴いたしまして、大変光栄なことで存じます。オンライン開催ということで、普段の学会とはまた違う緊張感がある中での発表となり、大変良い経験となりました。開催にご尽力いただき、また滞りなく進行してくださった実行委員の方々に感謝いたします。

今回はてんかん発作を検出するためのシステム開発に関する研究を発表いたしました。この研究は、不可測な発作により臨床現場で直面するさまざまな問題に対してどうにかできないか、という麻布大学の齋藤弥代子先生と自分の思いから始まりました。多くの学生さん、飼い主様、他施設の先生方のご協力を得ながらここまで進んできました。これまでにご協力いただいた方々に改めて御礼を申し上げます。

新評議員自己紹介



安倍どうぶつ脳神経外科クリニック院長
上都賀総合病院脳神経外科部長
安倍欣博

この度、獣医神経病学会新評議員を承りました安倍欣博と申します。私は、酪農学園大学獣医学部を卒業した後、獨協医科大学医学部を卒業しました。獣医学生として6年、医学生として6年大学生活を過ごし、学生生活や教育の違いを経験させていただきました。また、卒業後はしばらく医師として脳神経外科に従事し、その後獣医領域での活動を並行して行っております。人と動物の臨床における考え方や解剖学の違いなど、私にはとても興味があって、いつも楽しく仕事をさせてもらっております。

脳神経外科臨床では、丁寧な考え方と、場合によっては治療に対してスピードが重要視される事もあります。私自身も永遠の若手脳神経外科医のつもりで、煩雑な紹介作業を省き、可能な限り早い診察・治療を心がけております。必要な夜中でも各病院へ赴いて犬や猫の緊急手術を行っており、体力の続く限り頑張っていこうと思っております。この度は、いつも大変よくしてくださる北川勝人教授が会長に就任されたということで、力不足ではありますが、私が協力できることは何でもしていこうと考えております。今後とも、皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願い致します。

事務局から

・2022年度の学会は沖縄での開催を予定していますが、今後の状況により1月末に会場での開催の有無を決定します。決まり次第、メーリングリストおよびホームページでお知らせします。

・本年度の冬の基礎講習会はオンライン開催を予定しております(基礎講習プログラム1～3)。日程が決まり次第、メーリングリストおよびホームページでお知らせします。

編集後記

今回も素敵な文章を執筆いただきました先生方に感謝申し上げます。全ての先生方が前向きな文章を綴っておられ、力をいただきました。

Transmitterにあります「温故知新」は論語の中の言葉です。世界的に流行した疫病はコロナだけではなくペストやスペイン風邪など、多く知られています。その当時の人々はどのようにその危機を乗り越えたのでしょうか。それを学びつつ、最新の医学、経済学、社会学等々を駆使し、安らぎある世界になることを祈るばかりです。